【北海道伊達開来高等学校】遠隔等を活用した大学等の協力による持続可能な社会を担う人材育成

新しい教育方法を活用した 教科等横断的な学びのカリキュラムの概要

学校設定科目「だて学」

1　目的
地域を題材に探究的な学びを深めること

2　概要
・各教科の特色を生かし地元について知るとともに、将来、自らがどう貢献できるのか探究する。
・高等教育機関や事業所などと連携することで、発展的な課題の解決に取り組む。

【「だて学」に関連する各種分野】

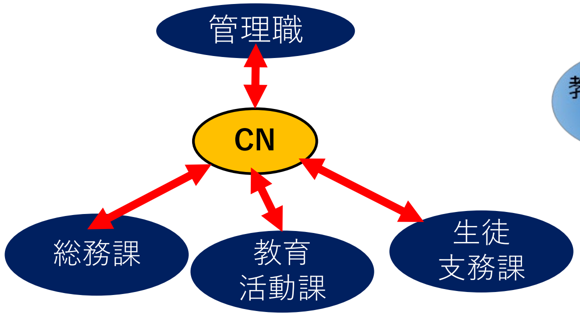
国語科分野	芸術（美術）分野
地歴・公民分野	外国語科分野
数学科分野	家庭科分野
理科分野	情報科分野
保健体育科分野	商業科分野

【高等機関等と連携した学びのイメージ】

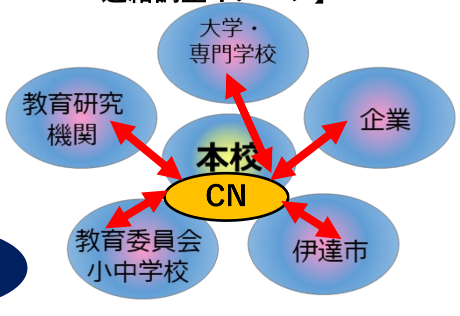
関係機関との連携・協働体制の構築方法

主にコーディネーター（以下「ＣＮ」という。）が次の役割を担い、関係機関等と連携・協力体制を構築。
①「だて学」のコンセプトを関係機関に説明
②連携・協力する関係機関等との連絡調整
③校内における連絡調整
④運営指導委員会やコンソーシアム会議の運営　等

【校内各課との連絡調整イメージ】



【関係機関等との連絡調整イメージ】



令和５年度の目標

①オンラインを活用して高等教育機関から講義を受けるなど、より専門的な教育を受けられる機会を設ける。
②生徒が設定した課題に応じて、継続的に専門家と研究協議を行い、指導・助言が受けられるよう、様々な高等教育機関等との連携体制を構築する。
③ＳＴＥＡＭ教育を柱とした教科等横断的な学習を推進するカリキュラムを開発する。

取組状況

①総合的な探究の時間および「だて学」において、高等教育機関の遠隔講義を実施
②生徒が設定した課題に応じて、専門家と研究協議を行い、指導・助言が受けられるネットワーク体制の強化
③主体的に探究活動に取り組む生徒の増加による「探究チャレンジ」の発表における上位大会への進出

成果と課題

○　地域に貢献したいと思う生徒を増加させることができた。
○　高等教育機関との連携体制を構築することができた。
○　地域企業と連携した授業を実施することができた。
●　探究活動を更に充実させる必要がある。
●　開発したカリキュラムを通じて身に付けた資質・能力の評価方法を確立する必要がある。

北海道伊達開来高等学校

別紙様式５

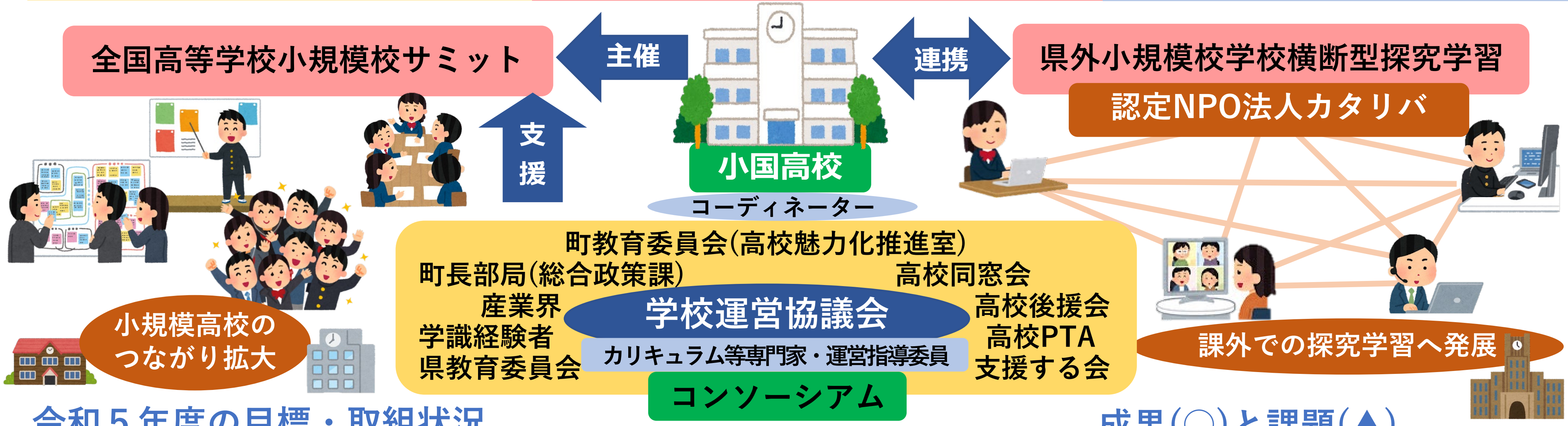
【山形県立小国高等学校】白い森未来探究プログラム

構想の概要

ＩＣＴ端末を用いた遠隔・オンライン教育を活用し、ＡＩ教材による個別最適化された学び直しと人的リソースや多様性を生み出しながら行う先進的な県外小規模校横断型探究学習の推進により、課題解決のための思考力･判断力･表現力等の資質･能力の育成を図る。

関係機関との連携・協働体制の構築方法

○小国町や小国町教育委員会との連携　○県外小規模校横断型探究学習のための連携　○連携協力を担うコーディネーター



令和５年度の目標・取組状況　　成果(○)と課題(▲)

目標	取組状況	成果(○)と課題(▲)
①AI教材の導入による教科学習の個別最適化 （★昨年の取組み＋新たな取組み）	・Qubena（１年生）とQureous（２年生）に加え、今年度は３年生の進学系の選択者にもQureousを導入 ・マイプラン学習に加え、授業外使用頻度の向上を目指し、朝学習や休憩時間での自学自習に利用	○生徒が自ら苦手な科目や分野に取組むことができるようになった ▲生徒にとってAI教材を使う目的を折を見て確認する必要がある
②教科等横断的な学びの推進と探究学習の個別最適化 （★今年度の重点取組み）	・【１学期】１チーム３名（３教科）で教科横断授業 ［A:共通のテーマを設定，B:使わせたい資質能力を設定］ ・【２学期】１チーム２名（２教科）で教科横断授業 ［ジグソー法による授業の実践］	○生徒の興味関心を引き出すことができた ▲各教科のカリキュラムにおけるねらいや位置づけが十分ではなかった
③オンラインコミュニティの構築と進学希望者の学びの動機喚起	・進学希望者のグループ化と面談の実施（小国町の協力）	○学習計画の立案とその実践により、学習意欲の喚起につながった ▲こまめな声掛けが必要であった

【益田永島学園 明誠高等学校】明誠高校バーチャルキャンパス始動プロジェクト

授業に「明誠高校バーチャルキャンパス」の設置運営を取り入れる。最大の特色はバーチャルキャンパスを用意するのではなく、設置から生徒に取り組ませることである。どのような産業、文化、企業とつながりたいか、つながるべきかを考え、仮想空間上に招待し、多彩な新しい価値の創出を目指す。
設置だけではなく運営においても生徒主体で進める。生徒は運営上のルールや課題、役割を話し合い、実行させることで、学びを自分事としてとらえる主体性を育む。また運営には、本学の学びを希望する子どもたち、地域住民にも参画してもらう。運営上生まれる新しい価値は地域に還元し、地域社会からの評価や、想定される経済的なリターンなどで、持続可能なキャンパス運営の実現を目指す。

令和５年度の目標

創造的教育方法の指導法の確立を目指す。
そのために、下記4点の実施を目指す。

１：地域資源の整理と新製品の開発
２：生徒たちの内面的変化の変遷の把握(継続)
３：仮想空間内の教室の運営の確立(継続)
４：本事業成果の広報(継続)

取組状況

1、候補となり得る資源を整理、実際の体験することで商品化を検討
2、関係機関へアンケート結果を診断中。
3、生徒が主体的にメタバースの作成を行い、その空間をどう利用するか検討
4、広報におけるより効果的な方法の検討。

CNには、一般社団法人eRa-tions（イレーションズ）代表の松島将悟氏を配置していたが前期途中から不在となる。NPO法人志塾フリースクール代表理事の山本了輔がCN代行を務め事業を継続した。明誠高等学校の理事を務めながら、全国のフリースクールや通信制の高等学校で授業の実施を行っている。また、関連して専門講師の招聘や地域活性化についての活動にも精力的であり、明誠高等学校の所在地である島根県益田市においても大学生との共同活動である海の家「レリエ」の運営をはじめ、様々な活動を実践している。高校生へ向けて起業家としての経験を伝え、豊かな発想を導くとともに、今後に生きる経験を自身をはじめ様々な講師とつながらせることで体感させていく。

成果と課題

【成果】
・４月～６月の期間中に６名の専門講師をメタバース内に招待、もしくは学校へ招聘し107名の生徒を対象に６回の特別授業を実施。
・益田の地域を盛り上げるため、地元農家の方と何ができるか相談、のち体験。

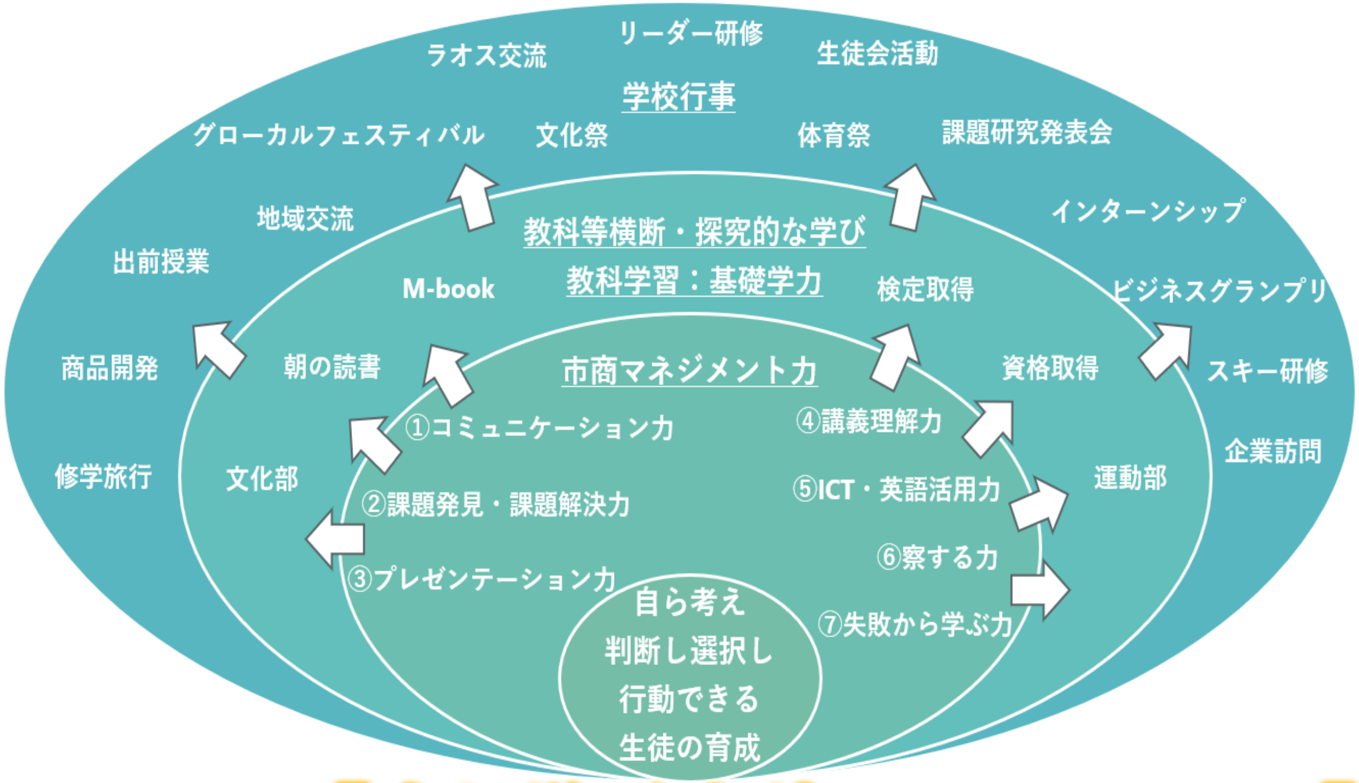
【参加専門講師一例】
プロサッカー選手、保育士、NPO法人代表(起業家)、金融教育
現役大学生プロ格闘家、性教育plus、デザイナー、海外活躍家　等

【特別授業一例】
・10代からの起業を考える
・ウルトラポジティブに生きるヒント
・世界一周 ～ストリートチルドレンに学ぶ生き方～
・学校では教えてくれない保育の裏側等

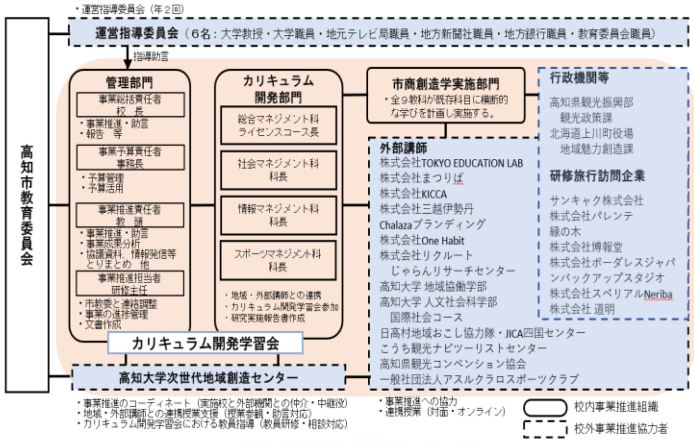
【課題】
・学校行事、授業時間との兼ね合い
・会議、打ち合わせ時間の確保→定例会議があったとしても学校という性質上突発的な事案が発生する可能性は大きい
・現状学校生活と、体験的プログラムをいかに融合させるか

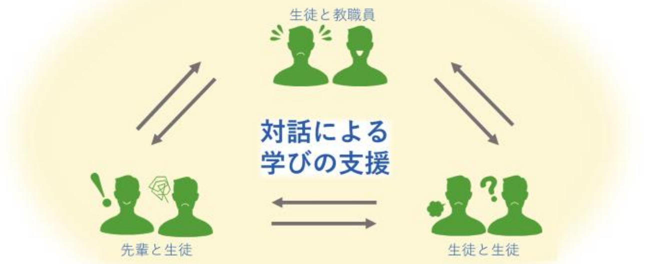
別紙様式５

【高知商業高等学校】市商地域創造プログラム　地域を創造する市商～これからの教育を考える～



【関係機関との連携・協力体制】





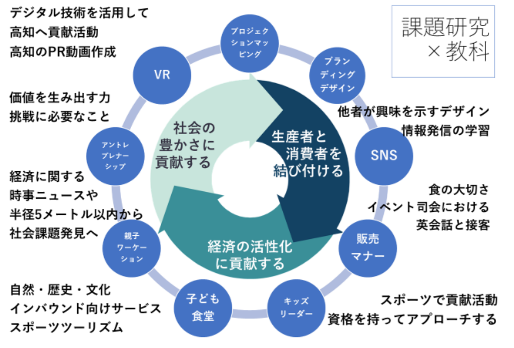
教わるから「自ら学ぶ生徒」へ　　教えるから「支援する教職員」へ

令和５年度目標

- ４学科で教科等横断的な学習を展開
- 地域創生・地域貢献について学ぶ
- コンソーシアム等の連携体制構築
- 市商地域創造プログラム報告会を開催
- カリキュラム効果と資質・能力の分析

取組状況

- 外部講師を活用し，他教科と連携授業
- 高知県内をフィールドに学びを展開
- 科コース長がCNとなり外部講師と連携
- ２・３年生によるプレゼンテーション
- 記述アンケート等による調査へ



成果

- 高知県内に就職希望した生徒100%内定
- 国公立大学に合格した生徒過去最高
- 連携授業を実施した教職員67.4%
- 来場者全員が本校の評価が高まったと回答
- 教職員の協働性･同僚性･主体性に好影響

残された課題

- 適切なパフォーマンス課題の設定
- 教職員のファシリテート技術の向上
- 生徒と周りの大人との対話による支援
- 的確に相手に伝わる言語を獲得させる
- 学校全体で取組む体制づくり

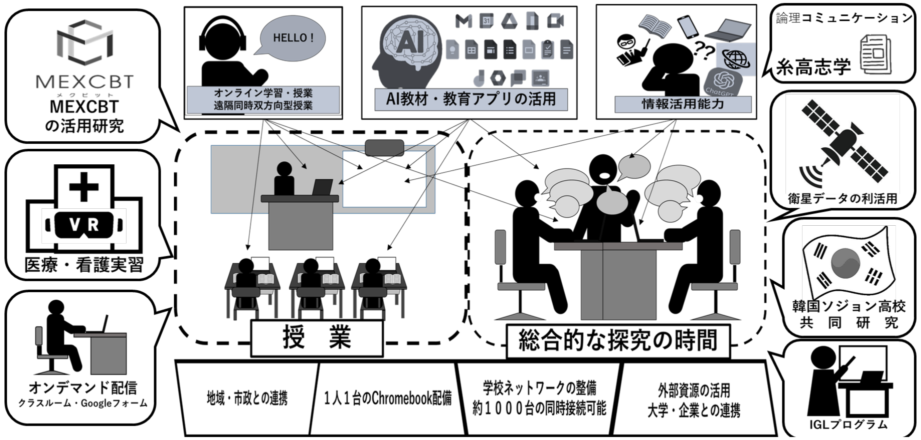
今後の進め方

- 課題研究グランドデザイン作成
- 対話を取り入れた教職員研修の実施
- 生徒を主体とした教職員等による支援
- アンケート調査をもとにR6実践へ
- 楽しく学ぶための余白づくりへ

別紙様式５

【福岡県立糸島高等学校】構想名「創：糸島グローカルリーダー」

創造的教育方法実践プログラム（第2期）



新しい教育方法を活用した教科等横断的な学びのカリキュラム概要

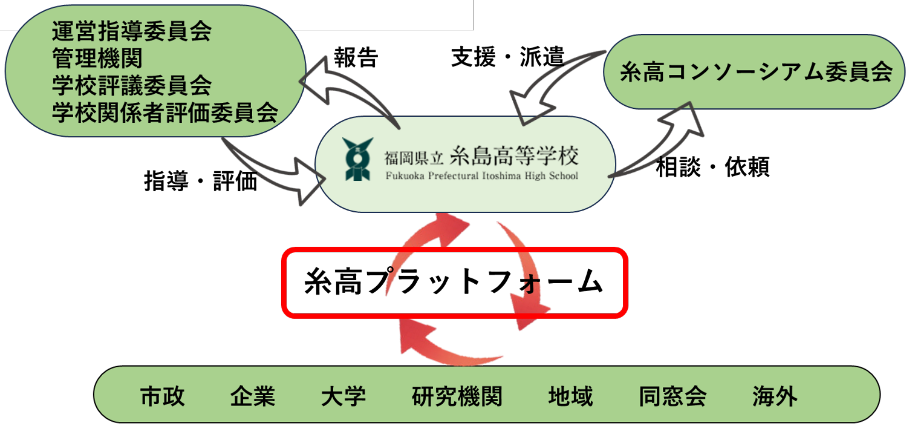
- **オンライン学習・授業と遠隔同時双方向型授業**
- **AI教材・教育アプリの活用**
- **情報活用能力**

以上の３つの観点から授業及び総合的な探究の時間について
デザインしました。

【授業】
〇学校設定科目「人間健康」での看護・医療系クラスの実習
〇MEXCBTの活用研究
〇オンデマンド配信

【総合的な探究の時間】
〇論理コミュニケーション
〇衛星データの利活用
〇韓国ソジョン高校との共同研究
〇Itoshima Global Leaderプログラム

関係機関との連携・協働体制の構築方法



令和５年度の目標	取組状況
〇学校設定科目「人間健康」での看護・医療系クラスの実習 大学や病院で年５回の実習及び事前事後指導	〇
〇MEXCBTの活用研究 数学英語の授業や自宅学習での利用、教材開発	×
〇オンデマンド配信 出席停止生徒や学級・学年閉鎖に対応した授業動画配信	△
〇論理コミュニケーション 遠隔同時双方向型授業による講義	〇
〇衛星データの利活用 新産業衛星データを活用した高校生の事業プラン提案	〇
〇韓国ソジョン高校との共同研究 遠隔同時双方向型の通信を活用した共同研究	〇
〇Itoshima Global Leaderプログラム 教育教材を活用したプレゼン能力育成及び他校との連携	〇

成果と課題
授業及び総合的な探究の時間において、遠隔同時双方向型授業を実施した。ネットワーク環境の充実により、ICTを活用した授業の普及は進んでいる。それに伴い、インターネットの情報の正誤性や、情報リテラシーについての情報活用能力の育成も進んだ。
しかし、個別最適な学びを実現するためのAI教材や教育アプリケーションの利活用については、実用的・効果的な導入ができておらず、それらをどのように授業と結び付けるかが課題である。

別紙様式５

【熊本県立人吉高等学校】　人吉 ・ 球磨ライジング構想
～新時代を切り拓き、地域の復興をかなえる、創造的な学びの構築～

令和５年度の目標

① 新たな社会（Society5.0）を牽引し、災害からの創造的復興を担う人材の育成
② 創造的復興に向けて、方法を思考する

連携・協働体制の構築

熊本県立人吉高等学校
事業推進委員会・評価開発委員会

コーディネーター →（連携・協働）→ 熊本県立人吉高等学校
運営指導委員会 →（指導・助言）→ 熊本県立人吉高等学校
コンソーシアム →（連携・協働）→ 熊本県立人吉高等学校

運営指導委員会
大学　地方自治体　企業

コンソーシアム
地元企業　人吉市役所　地域コミュニティ

地域課題解決に向けた探究活動

令和５年度の取組状況

ＢＹＨプログラムⅠ、Ⅱ
・講演会、フィールドワークの実施、成果発表会

人吉・球磨もやいすとプログラム
・熊本県立大学オンライン連携

クロスカリキュラム
・教科等横断的なクラスカリキュラム授業

先端技術（VR・AI等）の活用
・先端技術を生かした深い学びの実現

成果と課題

【　講演会４回、フィールドワーク２回、探究活動成果発表会の実施　】
成果：BYHプログラムⅠを基にした分野別探究活動の実践および発表会での提言
課題：BYHプログラムⅠ、Ⅱの成果を自身の進路とつなげる。

【　球磨川流域圏バーチャルキャンパス１３回、双方向授業２回　】
成果：オンラインを活用した熊本県立大学との連携、熊本県立大学生との意見交換
課題：オンライン連携で得られた専門的・多角的な視点を、個人探究活動とつなげる。

【　クロスカリキュラムの授業実践５回　】
成果：教科等横断的な視点による教材研究及び授業実践
課題：「総合的な探究の時間」との連携を意識したクロスカリキュラムの実践。

【　生徒による３６０度動画を基にしたVRコンテンツの作成】
成果：地域創生に資するVRコンテンツの作成およびVR体験ブース出展等でのPR活動
課題：ＶＲ・ＡＩを活用した教育方法の開発の実践。